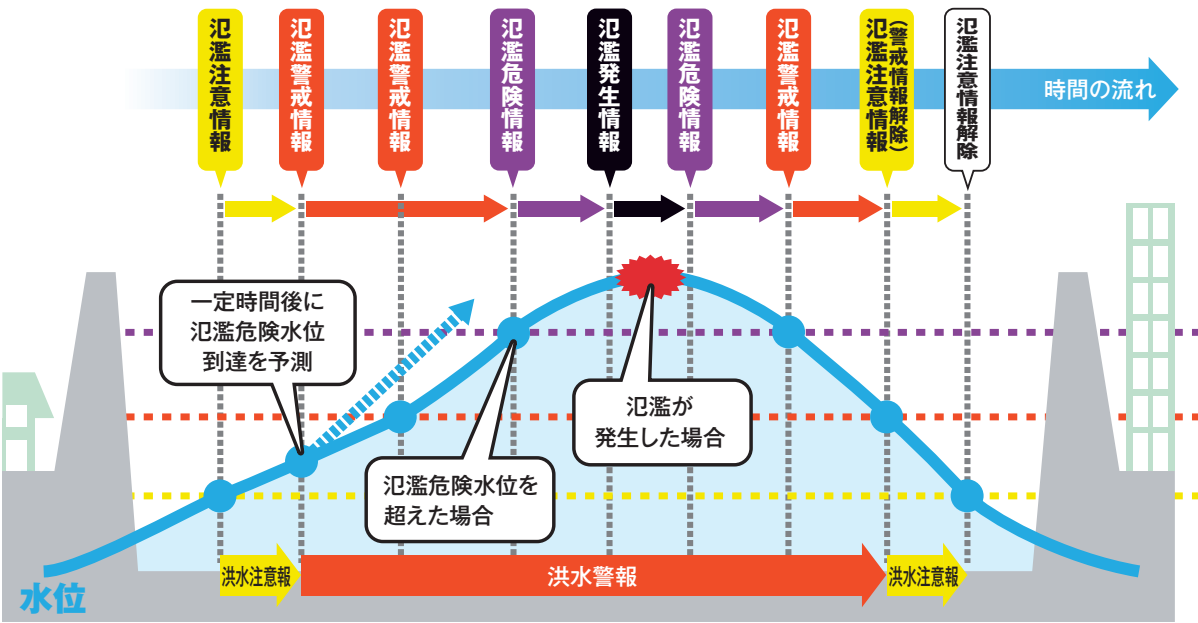


1 洪水浸水想定区域について

- このハザードマップで使用している浸水情報は、水防法の規定により指定された洪水浸水想定区域を示したもので、河川が大雨により氾濫した場合、浸水が予想される区域と浸水の深さを示しています。
自分の住んでいる地区がどの程度浸水するのか確認してください。
- このハザードマップには、「想定最大規模」の浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深を示しています。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水の深さとなったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水する可能性があります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害（床上・床下浸水など）が起こる場合がありますので十分注意してください。

2 河川の危険水位と洪水予報

河川ごとに設定された以下の危険水位に応じ、河川管理者と気象庁から洪水予報が発表されます。厚岸町はこの情報を目安にして、避難に関する情報を発令します。

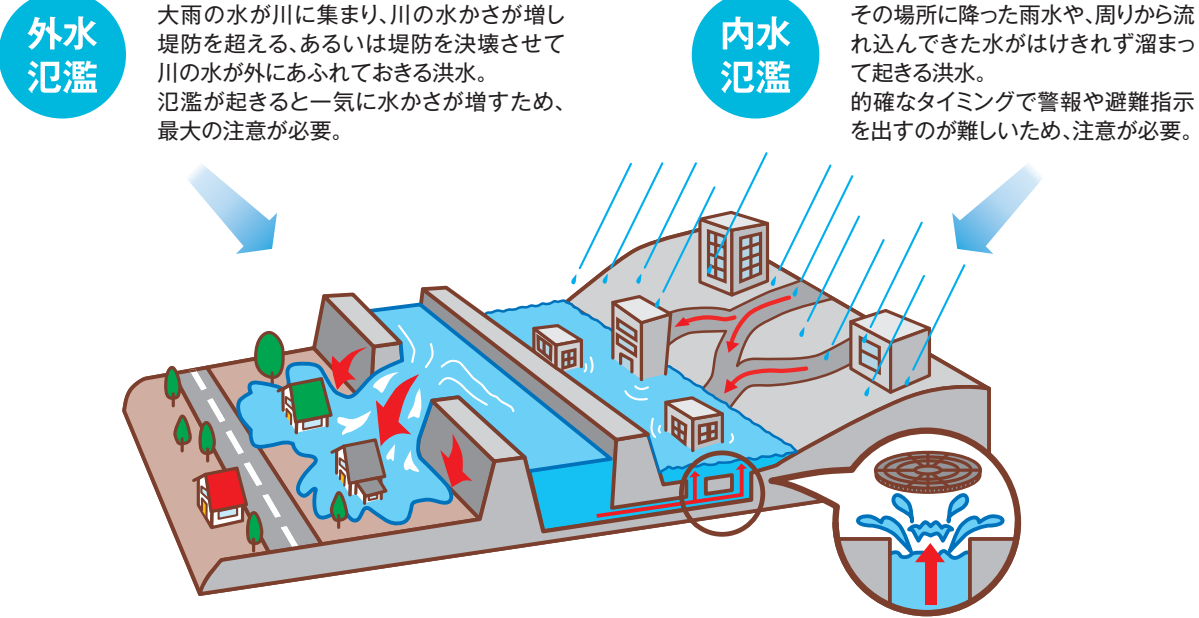


河川名	尾幌川
観測所	尾幌川
氾濫危険水位(レベル4水位)	6.80
避難判断水位(レベル3水位)	6.38
氾濫注意水位(レベル2水位)	5.48
水防団待機水位	4.31

(単位:m)

3 川の氾濫

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。



4 避難行動のポイント、危険な場所

！ 浸水が始まる前に早めの避難を

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となる。浸水してから自宅外への避難は危険。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとに、身の危険を感じたら自主的に避難を開始する。

！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難する。移動途中であっても、危険を感じた場合は、近隣の建物のできるだけ高い階に避難する。

！ やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適している。また、氾濫水は濁っているため、水面下が確認できない。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物に注意する。

！ 川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。また、避難の途中でも増水した川の近くを通るのは避ける。

(ページ内の図表は気象庁ホームページより抜粋、編集)